

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24401027

研究課題名(和文) 日本古代の仏教受容と東アジアの仏教交流

研究課題名(英文) Buddhism acceptance in ancient Japan, Buddhism exchanges in East Asia

研究代表者

佐藤 長門 (SATO, NAGATO)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：90306902

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：平成24年度は韓国の九山禅門を中心とする禅宗寺院の調査をおこない、金石文の調査・記録を実施するとともに、現地研究者との学術交流をおこなった。平成25・26年度は、中国山西省南部～陝西省西安市までを対象として、『入唐求法巡礼行記』にもとづく入唐僧円仁の行程調査を実施し、唐代における歴史的景観や交通路を復元した。

最終年度末には、日本・中国・韓国3カ国の研究者による国際シンポジウムを開催し、最新の研究状況の確認や国内外の研究者との学術交流をおこなうとともに、平成24～26年度の研究成果を公表した。現在、シンポジウムの成果を広く公開するため、書籍として刊行するべく準備を進めている。

研究成果の概要(英文)：2012 we were subjected to investigation of Zen temple in Korea. We conducted a research and recording of the inscription, was subjected to local researchers and exchange of opinions. 2013 - 2014, we have exploration Shanxi southern - Shaanxi Province in China. More specifically we investigate the Ennin's root based on the "Nitto Guho Junrei Koki", was to restore the historical landscape and traffic path in the Tang Dynasty.

At the end of fiscal 2014, and invited Japan, China and South Korea researchers, was held an international symposium. We have carried out and the confirmation of the latest research, the exchange of opinions with domestic and foreign researchers. In addition to published research results of 2012 - 2014 fiscal year. We are preparing to publish the results of this symposium as a book. Now, we are planning to be more widely published research results.

研究分野：日本古代史

キーワード：古代史 日本史 東アジア 比較・交流史 仏教

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本と朝鮮半島の仏教文化交流の研究

日本における仏教文化は、中国との関係だけでなく、朝鮮半島を媒介として受容・展開した経緯がある。すでに入唐求法巡礼行記研究会では、2008年に発見された百済の王興寺と日本の飛鳥寺の類似性に注目し、シンポジウムを開催するとともに、その成果を『古代東アジアの仏教と王権 王興寺から飛鳥寺へ』(勉誠出版、2010年、408頁)として公表している。しかし日本と朝鮮半島間の仏教文化交流については未詳な点が多く、韓国国内に遺存する古代寺院址の調査や韓国仏教が有する特質の解明が求められる。

東アジア世界における仏教文化交流の媒介は、僧侶のほか商人なども担っていた。7世紀の朝鮮半島では、百済滅亡に伴って遺民が日本列島に流入し、9世紀には在唐新羅人が中国・日本と交易活動をおこない、後述する慈覚大師円仁の求法活動にも支援の手を差し伸べていた。円仁の著書『入唐求法巡礼行記』には、在唐新羅人のネットワークと、その中で活動する新羅僧の姿がいきいきと記録されている。彼らの活動の実態を明らかにすることにより、東アジアにおける仏教文化交流の具体相に迫ることが可能となる。

(2) 日本と中国の仏教文化交流の研究

中国から日本への仏教伝播は、主として遣唐使とともに中国に渡った入唐僧によって担われた。9世紀中葉、遣唐使に同行して唐へ渡った天台僧円仁は、10年に及ぶ旅行記・在唐記録である『入唐求法巡礼行記』を残しており、そこには入唐僧による中国仏教文化受容の様子が具体的に記述されている。円仁と前後して入唐した智証大師円珍もまた『行歴抄』という在唐記録を残しており、下って10世紀の入宋僧成尋も『參天台五台山記』によって入唐求法の詳細を記録している。これらの史料的価値を実証するとともに、現地史料との比較や実地調査をおこなうことで、仏教文化交流の多角的かつ実証的な歴史像を復元する。

なお近年の中国社会では、急激な発展に伴う開発事業が増加しており、歴史的景観や遺物・遺構が十分な調査を経ないまま破壊されている。これらは唐代の地域社会を分析するうえで重要な史資料であり、現地調査による調査・記録が急務となっている。

2. 研究の目的

(1) 古代東アジアにおける仏教交流の研究

本研究は、古代日本が東アジア諸国との交流のなかでいかにして仏教文化を受容していったのかについて、総合的かつ多角的な視角からの解明を目指すものである。特に日本の仏教文化に大きな影響を与えた中国・韓国(朝鮮半島)を主な調査対象として、各国ごとの仏教文化の特質を析出するとともに、日本・中国・韓国3ヶ国間における仏教文化交

流の実態を復元的に調査・研究する。

(2) 入唐僧による求法活動の復元的研究

入唐求法巡礼行記研究会では、『入唐求法巡礼行記』に記載された円仁の入唐求法の足跡を、中国での踏査や現地史料との比較検討によって実態的に復元する取り組みを継続している。本研究会は、日本史・中国史・韓国史・考古学・宗教史を専門とする国内外の研究者から構成されており、多角的な視点から『入唐求法巡礼行記』の分析をおこなうことで、9世紀における入唐僧の求法活動を復元するとともに、彼らが日本の仏教文化形成に果たした役割を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 韓国国内の仏教関連遺跡の調査

新羅～高麗時代頃の禅宗系寺院や仏教関連遺跡を調査・記録する。また韓国は石仏や金石文が比較的多く残っており、これら史資料も調査・記録とする。

(2) 中国における円仁巡礼ルートへの調査

中国山西省・陝西省において現地調査を実施し、『入唐求法巡礼行記』に記載された円仁の巡礼求法ルート、求法活動の実態を復元する。現地の景観や地理的景観等を、映像や写真によって記録する。また位置情報をGPSで記録することにより、正確かつ詳細なルート復元をおこなう。

(3) 日本・中国・韓国3ヶ国の研究者との学術交流

上記の調査成果をふまえたうえで、日本・中国・韓国の研究機関および研究者との学術交流をおこない、その成果をシンポジウム、書籍刊行という形で広く公表する。

4. 研究成果

(1) 平成24年度の研究成果

平成24年12月23～30日、韓国に所在する古代禅宗寺院の調査を実施した。調査は9世紀～10世紀前半に建てられた禅宗寺院を対象とし、鳳林山鳳林寺址(昌原)、桐裏山泰安寺(谷城)、迦智山宝林寺(長興)、実相山実相寺(南原)、聖住山聖住寺址(保寧)、三神山双溪寺(河東)等において石碑・石塔の実見・実測し、拓本・釈文との比較検討をおこなった。これらの調査により、当該期の朝鮮半島における禅宗史の基礎的な情報を得ることができた。

また釜山・ソウルにおいて、古代仏教史・アジア交流史を専門とする金福順(慶州東亜大学)・李永植(仁済大学)・韓圭哲(慶星大学)・趙明済(新羅大学)・金文経(元崇実大学)・李基東(元東国大学)の諸氏と面会し、近年の考古学成果の提供を受けるとともに、9世紀前後の禅宗の展開に関する知見の交換をおこなった。調査を通じて、朝鮮半島における禅宗が、達磨にはじまる中国の系脈意識

と、新羅における師弟関係を軸にした系脈意識の双方を保持しながら受容されていた事実を確認することができた。

(2) 平成 25 年度の研究成果

平成 25 年 12 月 22～29 日、中国山西省南部において、『入唐求法巡礼行記』にもとづく入唐僧円仁の行程調査を実施した。調査では、前回(平成 23 年度)調査した吕梁市孝義市の王屯村から、運城市永濟市の蒲津渡址までの行程を確認した。調査により、現在では消失してしまった村跡や交通路を確認することができた。特に黄河沿岸の地域では、広大な河岸段丘地帯を調査し、黄河の浸食作用で陥没してしまった地点に、円仁の行程ルートを復元した。また、臨汾市襄汾県汾城鎮、運城市万榮県宝井村・新絳県泉掌村において、かつての県城跡の具体的な景観を確認することができた。

また現地調査終了後、陝西省西安市の西北大学仏教研究所所長・李利安氏の招待により、同大学で開催された「中日仏教交際学術講演会」に参加した。交流会を通して、現地研究者の関心の所在や、研究状況の確認をおこなうことができ、今後の調査・研究に資する知見を得ることができた。

(3) 平成 26 年度の研究成果

平成 26 年 12 月 24～29 日、中国陝西省渭南市・西安市臨潼区において、『入唐求法巡礼行記』にもとづく入唐僧円仁の行程調査を実施した。調査では、聞き込みや衛星写真を活用することで、円仁が通ったと考えられる五臺山 長安を結ぶ交通路の痕跡を確認した。特に渭南市大荔県から渭南市街へ向かうルートでは、「駅」の遺称地名とそこから西安へ向かって伸びる直線道を確認することができた。本年度調査を以て、円仁が日本を出発してから長安に到るまでの往路について、ほぼ全地域の調査を完了したことになる。

また平成 27 年 1 月 25 日には、國學院大學において日本・中国・韓国 3 カ国の研究者による国際シンポジウムを開催し、平成 24～26 年度の研究成果を公表した。これにより、各国の最新の研究状況を確認するとともに、国内外の研究者との学術交流をもおこなうことができた。シンポジウムの成果については、論文集として刊行することを計画している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

山崎雅稔、唐における新羅人居留地と交易、國學院大學紀要、査読有、53 巻、2015、33 - 60

酒寄雅志、遣唐使の航路、栃木史学、査読無、28 巻、2014、38 - 84

佐藤長門、天孫降臨神話の改作と八世紀前後の王位継承、國學院雑誌、査読有、114 巻 1 号、2013、1 - 16

笹生 衛、円仁の足跡を訪ねて() 山西省、栃木史学、査読無、27 巻、2013、43 - 59

葛継勇、国号「日本」とその周辺 「祢軍墓誌」の「日本」に寄せて(1) 、国史学、査読有、209 巻、2013、1 - 29

[学会発表](計 7 件)

佐藤長門、日本古代における密教の受容過程、国際シンポジウム 古代東アジアの仏教交流、2015 年 1 月 25 日、國學院大學

笹生 衛、考古学から見た仏教信仰の受容、国際シンポジウム 古代東アジアの仏教交流、2015 年 1 月 25 日、國學院大學

田中史生、東アジアの仏教交流、国際シンポジウム 古代東アジアの仏教交流、2015 年 1 月 25 日、國學院大學

山崎雅稔、新羅仏教の展開と特質、国際シンポジウム 古代東アジアの仏教交流、2015 年 1 月 25 日、國學院大學

王海燕、杭州における仏教史跡、国際シンポジウム 古代東アジアの仏教交流、2015 年 1 月 25 日、國學院大學

葛継勇、来日唐僧と奈良仏教社会、国際シンポジウム 古代東アジアの仏教交流、2015 年 1 月 25 日、國學院大學

金子修一、唐代における皇帝の喪葬儀礼の日程について、日本史研究会、2013 年 9 月 13 日、機関紙会館

[図書](計 3 件)

田中史生編、勉誠出版、入唐僧惠萼と東アジア 附惠萼関連史料集、2014、264

鈴木靖民・金子修一編、勉誠出版、梁職貢図と東部ユーラシア世界、2014、559

鈴木靖民・金子修一・石見清裕・浜田久美子編、八木書店、訳註日本古代の外交文書、2014、399

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
「入唐求法巡礼行記研究会」
(<http://www.junreikoki.jp/>)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤長門 (SATO, Nagato)
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：90306902

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

鈴木靖民 (SUZUKI, Yasutami)
國學院大學・文学部・名誉教授
研究者番号：20052160

金子修一 (KANEKO, Shuichi)
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：60093952

酒寄雅志 (SAKAYORI, Masashi)
國學院大學栃木短期大学・日本文化学科・
教授
研究者番号：90187055

石見清裕 (IWAMI, Kiyohiro)
早稲田大学・教育・総合学術院・教授
研究者番号：00176562

笹生 衛 (SASO, Mamoru)
國學院大學・神道文化学部・教授
研究者番号：60570471

田中史生 (TANAKA, Humio)
関東学院大学・経済学部・教授
研究者番号：50308318

(4) 研究協力者

王海燕 (Wang, Hai-yan)
中国・浙江大学・人文学院歴史系・教授
研究者番号：

葛継勇 (Ge, Ji-yong)
中国・鄭州大学・アジア太平洋研究センター・
副教授
研究者番号：

李鎔賢 (LEE, Yong-hyeon)
韓国・国立中央博物館・学芸研究士
研究者番号：

山崎雅稔 (YAMASAKI, Masatoshi)
國學院大學・文学部・助教
研究者番号：40459392

河野保博 (KAWANO, Yasuhiro)
京都造形芸術大学・通信教育部・非常勤講
師
研究者番号：

溝口優樹 (MIZOGUCHI, Yuki)
國學院大學大学院・特別研究員
研究者番号：

桜田真理絵 (SAKURADA, Marie)
明治大学大学院・文学研究科・博士後期課
程
研究者番号：